

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	早間 貴之	生徒指導主事	正本 武士
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『児童の生活満足感を上げる生徒指導』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「認め、高め合う力」	1	「考え・表現する力」	2	「本気でやり抜く力」	3

**取組のねらい**

学級交流・異学年交流を通して、児童が主体的に関わる中で、積極的な生徒指導の取組を行っていく。その取組を通して、自他の良さに気づき、認め合い、学び合うことのできる児童の育成を目指す。

<b>取組の具体的内容</b>	<b>取組の創意工夫</b> 『生活満足感向上』
-----------------	-----------------------------

**I 構成的グループエンカウンター・アイスブレイクの実施**  
月に1回、構成的グループエンカウンターやアイスブレイクを学級で行った。児童の実態に応じてその時々の課題に応じた内容に変更しながら行うようにした。

**II 異学年交流（たてわり班活動）**  
社会性の基礎を培うため、異学年交流（たてわり班）による活動を実施している。主として①掃除、②遊び、③給食の3点である。活動は全て、6年生が中心となって企画・運営を行っている。6年生は縦割り掃除の分担や掃除指導、振り返りに至るまで最高学年としての姿を児童に示している。たてわり班遊びも6年生が計画し、全体が楽しむことができるように考え、運営している。たてわり班給食も学年に応じて自分の役割があり、高学年を中心として運営を行っている。そのため、「あんな6年生（高学年）になりたい」という憧れを児童はもつようになっている。また、低学年の児童に優しく、丁寧に説明やお世話をすることで、「自分から働きかけができた」「誰かの役に立てた」と児童は感じている。お世話された側も自然に感謝の気持ちを抱くようになり、人と関わる喜びを感じられるようになってきている。

○ASESSの結果をもとに、SCを招聘して児童の生活満足感を上げるための取組に関する校内研修を行った。

- ①たてわり集会（月1～2回）
- ②交流給食（学期に2回）
- ③たてわり班給食（年1回）
- ④たてわり班遊び（毎月）
- ⑤たてわり班掃除（毎日）
- ⑥たてわり6送会（年1回）



**取組の成果と課題**

	3年平均	4年平均	5年平均	6年平均
生活満足感	53	50.7	53.7	57.3
教師サポート	64.7	59.3	58.3	66.3
友人サポート	60.0	55.7	56.3	61.3
向社会スキル	59	54	57.7	59.7
非侵害的關係	64.7	59.3	59.3	66.3
学習的適応	58	51	54	54

○ASESSの各学年の平均値は、高くなってきている。友人サポートや向社会スキルも平均値よりもかなり高くなっている。

●6年生がかなり主体的に活動をしたが、活動の企画準備に時間がかかり、休憩時間がしっかりと取ることができない時期ができてしまった。今後、総合的な学習の時間や学級活動の時間に行っていくことができるように配慮する必要がある。

【11月 ASESS の結果】